

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	令和3年度 第2回入間市文化財保護審議委員会
開 催 日 時	令和4年3月30日(水) 午後3時開会・午後4時45分閉会
開 催 場 所	入間市博物館 会議室
議 長 氏 名	鹿島 英明
出席委員(者)氏名	鹿島 英明 枝窪 邦茂 柳澤 かほる 梅津 久昭 荒牧 澄多 小峰 孝男 青木 和子 児玉 俊雄
欠席委員(者)氏名	
説明者の職氏名	博物館主幹 大久保 卓
会 議 次 第	(すべて公開) 1 開 会 2 挨 拶 3 議 題 (1)新規指定文化財の選定について〔資料1〕 4 報 告 (1)旧黒須銀行復元改修事業の進捗状況について〔資料2〕 (2)旧石川組製糸西洋館の応接室壁紙の破損状況について 〔資料3〕 (3)その他 5 その他 6 閉 会
傍 聴 者 数	0人
配 布 資 料	資料1：令和3年度 指定文化財候補一覧 資料2：令和3年度入間市公開事業見直し入間ドック評価結果と 今後の対応 資料3：旧石川組製糸西洋館応接室壁紙破損状況写真
事 務 局 職 員 職 氏 名	・教育部部長 浅見 嘉之 ・博物館館長 加藤 保夫 ・同主幹 大久保 卓 ・教育部次長 片寄 貴之 ・博物館副館長 澤田 和也 ・同主事 石井 美波
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 (2)

議事の概要（経過）・決定事項	
議 題	3 議 題 (1) 新規指定文化財の選定について
決 定 事 項	3 議 題 (1) 新規指定文化財の選定について 「古谷重松奉納祭囃子祭礼図絵馬」について、新たな指定文化財として選定することにした。

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
	<p style="text-align: center;">3 議 題</p> <p>(1) 新規指定文化財の選定について</p>
鹿島委員長 事務局	<p>指定文化財の候補について事務局より説明をお願いします。</p> <p>前回の保護審議委員会で市指定文化財候補として6件の文化財の審議を行いました。その中の1つである「古谷重松奉納祭囃子祭礼図絵馬」について、博物館に寄託されている実物を見ながら改めて審議していただきたいと思っております。詳細については推薦者である小峰委員よりお願いいたします。</p>
小峰委員	<p>「古谷重松奉納祭囃子祭礼図絵馬」は、明治7年に所沢村植宿の古谷重松太鼓連中により久保稲荷神社に奉納されたもので、重松流祭囃子に関連した資料としては初期のものです。絵馬には、先導から進行役、曳き手の牛や山車、それに見物人まで描かれており、当時の山車行列の様子を見て取ることができます。また大榭に付けられている16枚の短冊には、所沢周辺の地名が記されています。この地名は明治初期に重松流が伝承されていたと場所と考えられ、地名の中には「ふじさわ」と入間市藤沢地区の名も見えます。過去に民俗調査を行った際に、藤沢地区の古老から以前上藤沢の神明神社にお囃子が伝わっていたという話を聞いたことがあります。この囃子が重松流祭囃子だったと推定されます。</p>
荒牧委員 小峰委員	<p>描かれている山車にモデルはあるのでしょうか。</p> <p>4つ型式の車輪が見えます。八王子・拝島・瑞穂などで使われている山車にも見えますが、モデルについてははっきりと分かりません。祭礼に合わせて組み立てたものである可能性もあります。</p>
枝窪委員 荒牧委員	<p>笠鉦のようにも見えます。</p> <p>重松流祭囃子に関係した資料として、ほかにはどんなものがあるのでしょうか。</p>
小峰委員	<p>資料としては、明治20年代になると所沢市に文書資料が存在します。また、明治30年代のものとしては、小平市の青梅街道沿いの神社の手水鉢の奉納者にその名が見えます。その中でも「古谷重松奉納祭礼図絵馬」は重松流祭囃子の関連資料の中で年代が判明しているものの中では最も古く、資料的価値があると考えます。</p>
荒牧委員 枝窪委員 鹿島委員長	<p>当時の祭礼の様子や習俗がよく分かります。</p> <p>コンパクトにまとまっていてわかりやすいです。</p> <p>入間市だけではなく、近隣市町村にとっても貴重な資料だと思います。それでは「古谷重松奉納祭囃子祭礼図絵馬」については、当委員会として新たな指定文化財として選定することによってよろしいでしょうか。</p>
一同 事務局	<p>異議なし</p> <p>では委員の皆さまの御意見を受けて、新たな指定文化財として選定することにして、今後指定に向けた手続きを進めてまいります。</p>
鹿島委員長	<p>では議題が終わりましたので、議長の座をおろさせていただきます。</p>

会 議 録 (4)

発言者	発言内容
	<p>4 報 告</p>
	<p>(1) 旧黒須銀行復元改修事業の進捗状況について</p>
事務局	<p>令和4年度の復元改修工事の開始に向けて実施設計等の事業を進めてきましたが、公開事業見直し「入間ドック」の結果を受けて、令和4年度は事業を凍結し、改めて方向性の検討と、課題を解決した上で、再度事業化を図ることになりました。</p>
荒牧委員	<p>令和4年度は事業凍結とのことですが、今年度実施している実施設計はどうなるのでしょうか。</p>
事務局	<p>現在、令和5年度から事業が進められるように検討を進めているところですが、事業内容に大きな変更がなければ、令和3年度の実実施設計をもとに改修工事を進めてまいります。</p>
梅津委員	<p>今回の事業見直しについては、古い手法と認識しています。このような手法は、しばしば行政を担う職員を委縮させてしまい、政策に混乱を招くことがあります。今回の入間ドックの評価者、市民判定人はどのように選ばれたのでしょうか。</p>
事務局	<p>評価者は「構想日本」のメンバーで、行政職員や弁護士等で構成されています。市民判定人については、市民の中から無作為抽出で選ばれた方々です。</p>
梅津委員	<p>文化財を残していくというのは、市の主体性の問題と考えています。市長がリーダーシップを取って、守っていくという気持ちが大切です。入間市には、旧黒須銀行のほかにも豊岡大学や西洋館など、素晴らしい歴史・文化財があります。それらと旧黒須銀行を一体のものとして、後世に伝えていくべきと考えます。これまでのプロセスを無駄にしないように、ぜひ頑張ってください。</p>
鹿島委員長	<p>この事業は、何年も前から継続的に取り組んできた事業です。私も旧黒須銀行のことは、市の主体性の問題と考えています。歴史・文化を通じて、若い人が入間に住んでみたいと思えるような、文化財を活かしたまちづくりを進めてもらいたいです。これまで計画を進めてきた旧黒須銀行が壊れてしまっは、大変なことになると危惧しています。</p>
荒牧委員	<p>今回進めてきた事業は、庁内関係課による調整から始まり、市民ワークショップの開催、市民会議の意見による保存活用計画策定など、しっかりと手順を踏んでやってきたものです。歴史・文化は一度壊されてしまったら取り返しのつかないものであり、ぜひ自信をもって取り組んでもらいたいです。文化財があることは、市の強みになります。</p>
事務局	<p>皆さまから頂戴した意見は、事務局への激励と捉え、再事業化に向けて取り組んでまいります。</p>
	<p>(2) 旧石川組製糸西洋館の応接室壁紙の破損状況について</p> <p>西洋館本館1階の応接室の壁紙は、創建当初に製作されたものがその</p>

会 議 録 (5)

発言者	発言内容
青木委員 事務局	<p>まま残っており、文化財として非常に貴重なものです。経年劣化により一部に破れなども生じていましたが、この冬の間状態が急激に悪化しました。原因としては、一般公開やイベント等の活用が本格化したことで人の出入りが多くなり、徐々に傷みが進行していたことはありますが、ちょうど今年の1月から2月にかけて撮影の貸出が重なり、その際に換気のために窓を開けていたことから強い風が室内に吹き込み、それにより壁紙の破れ目が広がったことが直接的な要因と考えています。このままの状況が続くとさらに破れが広がり、文化財としての保存が困難になることから、撮影の貸出について制限していくとともに、壁紙の修復について計画していくものです。</p> <p>撮影の貸出に当たって、管理体制はどうなっていますか。</p> <p>撮影の貸出については、事前に撮影内容を審査して許可をした上で、撮影当日については委託契約を結んでいる管理業者の監視員立会いのもと適切に実施しています。また、博物館職員も適宜現地での確認を行っており、今回の一連の撮影においても使用上の問題はなかったと認識しています。</p>
柳澤委員 事務局	<p>部屋全体の壁紙を修復するのでしょうか。それとも一部のみでしょうか。</p> <p>全体で傷みが進行していますので、部屋全体を考えています。なお、現在、三つの方法を検討しています。一つ目は、現在の壁紙を剥がし、裏打ち補修をした上で、再度壁紙として使用する方法。幸い破れてしまった部分についてもしっかり保管していいしますので、貴重な文化財として修復することは可能です。二つ目の方法としては、現在の壁紙と同じ意匠・材質の壁紙を復元製作して使用する方法です。そして三つ目は、応接室の雰囲気にあった新しい壁紙を使用する方法です。</p>
柳澤委員 事務局	<p>現状での使用について、どのように考えているのでしょうか。</p> <p>撮影使用に関しては、応接室の使用を4月以降中止します。なお、一般公開時は現行どおり入室可能とします。</p>
荒牧委員	<p>壁紙の修復は必要ですが、せっかく壁紙を直しても、その後の改修で変更が必要になることもあります。修復に当たっては、西洋館全体の中・長期的な修繕計画の中で議論していく必要あると考えます。そのためには関係各課との調整が必要であるとともに、市としての合意を得ることが求められます。また、個人的には西洋館は、川口市の国指定重要文化財「旧田中家住宅」と同じグレードで、国指定とは言わないまでも埼玉県指定文化財の価値は十分あると考えています。しかし、西洋館については、建築史における位置づけがまだ不足しているように感じます。例えば設計者の室岡惣七について、彼が携わった建築を調べ、西洋館の位置づけが明確にできるのであれば、より価値を高めることにつながると思います。川越市の旧山崎家別邸の保存においては、設計者の保岡勝也の事績を調査・研究し、展示会を行うことで認知度を高め、現在は国指定重要文化財になっています。なお、公開時には</p>

会 議 録 (6)

発言者	発言内容
<p>事務局</p> <p>事務局</p>	<p>入室できるとのことですが、人間の心理としてつつい破れていると気になり触ってしまうことが多いので、壁紙には触らないようにとの注意書きを表示すると良いです。また、応急修理を検討してもよいと思います。</p> <p>貴重なご意見ありがとうございました。今後修復方法については検討を進めていきますので、改めてご意見を頂戴したいと考えています。</p> <p>(3)その他</p> <p>鹿島英明委員、田代甲平元委員が、令和4年1月に入間市有功表彰を受けられましたのでご報告します。</p> <p>令和3年4月から開始した入間市文化財保存活用基金の状況ですが、10件の寄附と博物館、西洋館、旧黒須銀行に設置した募金箱への寄附により、令和3年度の積立額は約430万円となりました。今後も継続してまいります。</p>
<p>事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。</p> <p>令和 年 月 日</p> <p>議 長 の 署 名 _____</p> <p>議長が指名した者の署名 _____</p>	